

今日のトピック 金価格の動向

Brexit（英国のEU離脱）選択後も底堅い推移

ポイント1 Brexitで金価格は一段高 安全資産として金が選好される

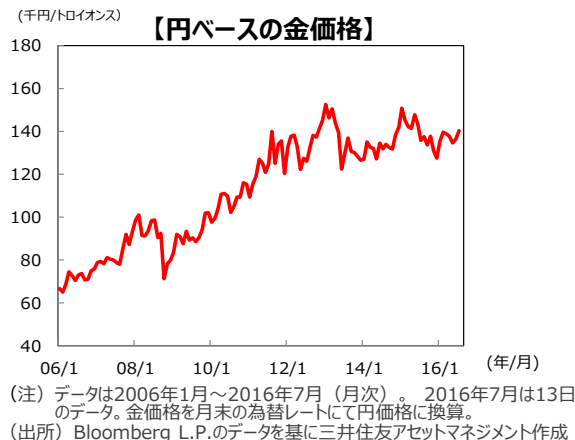
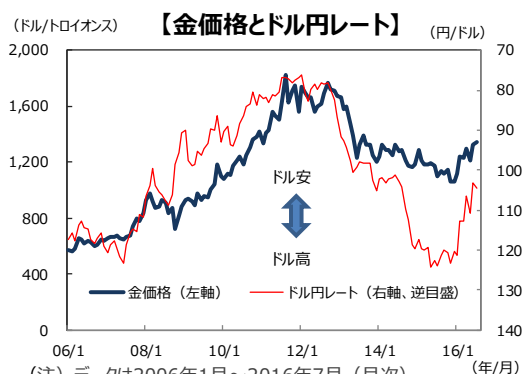
- 金価格は11、12年のピークの後、下落基調で推移してきましたが、今年に入り上昇に転じています。7月13日の現物の価格は、年初来で約26.5%の上昇となっています。
- 米国の利上げ期待の後退を受けて、ドル安が進行したこと、英国のEU（欧州連合）からの離脱選択により金融市場が不安定となったため、金の安全資産としての見直し機運が高まったためと思われます。英国の国民投票後の24日には、1日で約4.7%の上昇となりました。

ポイント2 円ベースの金価格は横ばい ドルベースの上昇を円高が相殺

- ただし、円ベースの金価格は、概ねボックス圏での推移となっており、年初からの上昇率は約10%にとどまっています。ドルベースでの金価格の上昇を、円高の進行が相殺しているためです。これは、外国為替市場で、円が金と同様に安全資産として選好されているためです。

今後の展開 米国の金融政策が当面の金価格のカギ

- 英国のEU離脱選択直後の金融市場の混乱は、比較的短期間で収束しましたが、金価格は依然底堅く推移しています。今後の英国やEUに対する懸念が完全には払しょくできないうえ、世界的な低金利の環境下、ETFによる金への投資需要が増加していることが背景にあると思われます。また、金の新規鉱山開発が乏しく、価格上昇にもかかわらず生産量が増えていないという需給面のひっ迫も一因と考えられます。
- 今後の金価格は、米国の長期金利や米ドルの動き、すなわち米国の金融政策や地政学的リスクなどの影響を受けると考えられます。金価格の動向は、金融市場に対する投資家の心理状態を推し量る参考になります。いわば、「市場心理のバロメーター」と考えられ、金価格の動向が注目されます。



ここもチェック! 2016年7月11日 米国の雇用統計 (2016年6月) 雇用は増加の勢いを回復
2016年6月24日 英国の国民投票 国民投票は「Brexit」

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。